

工学実験 II (建築系) (Experiments of Architecture)							
本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当		
土木建築	必修	5 年前	1	実験	古田健一 工藤洋三 中川明子		
【授業の概要】 実践的技術者を養成する上で重要な、実務に役立つ技術や知識を体験的に習得することを目的とする。また、報告書の作成により技術者として重要な考察能力を養う。							
【授業の進め方】 以下の項目について実験実習を行い、実験実習の成果をレポートにまとめて提出させる。 各回の実験は 1 2 0 分で行う。ただし、時間割で実施日の最終時間に割り振りができなかった場合は、別に授業を行い時間を確保する。							
【授業の概要】	【授業項目】		【内 容】				
1 回	住宅空間分析実験 (1) 担当：中川		ゾーニングについての講義 / 設計製作室				
2 回	住宅空間分析実験 (2)		調査実験：グループで建築家を 1 名選びその建築家の作品のゾーニング建築雑誌などで検証し、時代変遷、建築家の傾向を読み取る。 / 図書館				
3 回	住宅空間分析実験 (3)		第 2 週目作業の継続 / 図書館他				
4 回	住宅空間分析実験 (4)		成果発表会第 1 部 / 設計製作室又は情報処理センター				
5 回	住宅空間分析実験 (5)		成果発表会第 2 部 / 設計製作室又は情報処理センター				
6 回	構造実験ブリッジコンテスト (1) 担当：工藤		つまようじブリッジコンテスト ルールの説明と企画立案				
7 回	構造実験ブリッジコンテスト (2)		CAD による設計図面の作成				
8 回	構造実験ブリッジコンテスト (3)		素材の加工および接合				
9 回	構造実験ブリッジコンテスト (4)		部材の接合および仕上げ				
10 回	構造実験ブリッジコンテスト (5)		つまようじブリッジ載荷試験 (レポート作成)				
11 回	建築実験 B 重回帰分析 (1) 担当：古田		多変量解析と重回帰分析の講義				
12 回	建築実験 B 重回帰分析 (2)		データ収集				
13 回	建築実験 B 重回帰分析 (3)		分析 (1 回目)				
14 回	建築実験 B 重回帰分析 (4)		分析 (2 回目)				
15 回	建築実験 B 重回帰分析 (5)		レポートの作成				
【到達目標】		実験内容をよく理解した上で、目的、方法、結果、考察などの要求された項目を満たすレポートを書くことができる。					
【徳山高専学習・教育目標】			B1	【 J A B E E 基準 1(1)】		d-2b	
【評価法】		「工学実験の評価の採点基準」は次に示す通りである。 1. 工学実験を行った (20%) 2. 成果物 (レポートなど) の提出期限が守られている (10%) 3. 成果物は実験指導書で要求されている必要条件を満たしている (70%) 各実験の必要条件は、実験時配布資料に記載し、最終成績は 3 種類の実験の評価の平均とする。					
【テキスト】		各テーマごとに資料、テキストを配布する。					
【関連科目】		工学実験 I (建築系) (4 年) 卒業研究 (5 年)					
【成績欄】		前期中間試験 【 】	前期末試験 【 】	前期成績 【 】	後期中間試験 【 】	後期末試験 【 】	学年末成績 【 】